

第1回山口県大型児童館整備基本構想検討委員会の概要について

- 1 日時 令和8年6月16日（火）13時00分から14時30分まで
- 2 場所 県庁共用第3会議室
- 3 出席者 委員7名（次頁のとおり）、山口県児童センター 松原館長、
こども・子育て応援局長、こども政策課長、こども家庭課長、関係課職員
- 4 議題 大型児童館の機能・役割について

（主な意見の概要）

- 山口県唯一の大型児童館として、公共施設だからこそ担える役割がある。他の子どもの遊び場と同じではなく、山口県の環境を活かして、山口の魅力を集めた施設とすることが重要である。
- 大型児童館を子ども・子育て支援の拠点とするとともに、子どもたちの視点に立った支援を行っていくためには、学校・児童館・児童福祉施設・こども食堂など地域の支援機関が連携し、子ども・若者の声を集めて、大型児童館に適切につないでいくことが重要である。
- 今後、機能・役割を具体的にどのように実現していくのかを考える際に、それを形づくるための明確なテーマやコンセプトが必要である。
- インターネットやICTの普及で、子どもの遊び方は大きく変化している。今後は、ICTを活用した新しい交流・遊びのプログラムを開発し、発信する拠点が必要になってくるのではないか。
- 子どもたちはインターネットで多くの情報を得ているが、実際の体験や人とのリアルな交流が不足していると感じている。子どもの興味に応じて、専門家やプロの人と出会い、つながれる機能があるとよい。
- 公園があっても、熱中症のリスク等により、実際に外に出て遊べない状況があるため、室内でしっかり遊べる場所が必要である。屋外と屋内の両方の遊び場が求められているため、広い敷地で、屋内外の遊び場が機能的にバランスよく配置された施設が望ましい。

- プラネタリウムはあまり他にない施設であり、求める声は多いと思う。整備されれば大型児童館の象徴的な存在になると思う。
- 山口の自然に恵まれた環境を生かしてアスレチックを整備するなど、子どもが自由に遊べる場所を広げていけるとよい。
- 中高生の居場所が少ないと感じている。他の児童館にはない県の大型児童館の機能として、中高生が安心して集える新しい居場所になるとよい。大型児童館がそうした場のモデルとなり県内に普及させていくとともに、スタッフの養成等も行う中間支援的な役割を果たすことが期待される。
- 文化芸術活動のためのスペースなど、児童館の設備の整備にあたっては、時代によって価値観が変化することを考慮し、将来のニーズも見据えて整備を行っていく必要がある。中高生など若い世代に直接ニーズを聴きながら整備を進めていただきたい。
- 実際に音楽活動等を始めようとする、場所が限られており、制限が多いのが現状である。若い世代は音楽活動等に一生懸命取り組んでおり、思いを持って活動しているため、そうした若者が集まれる場所になるとよい。
- フリースペースとして机がおいてある施設では、多くの中高生が利用してグループで勉強している。目的が決まった部屋だけでなく、自由に使える空間が必要である。
- 不登校の子どもも安心して長く過ごせる福祉的な居場所としての機能があるとよい。大型児童館が直接その機能を持つことが難しい場合でも、地域のそうした居場所を把握し、紹介できる機能が必要である。
- 公園などで「インクルーシブ」を掲げた整備が進む一方、実際には使いにくい、個別ニーズに合っていない例が多いと感じている。各地域のインクルーシブ公園の取組について、意見を聴取した上で、その意見を取り入れていくことが望ましい。
- 災害時、障がいのある子どもが安心して過ごせる場所が少ない。避難後の心身のケアとして、遊びや余暇を過ごす時間は重要な役割を果たすため、大型児童館が、被災後のケアにつながる遊びのプログラムを考え、発信できる拠点となるとよい。
- 児童館は、大人が子どもに付き添って利用することが多いことを踏まえ、大人も行きたくなるような、大人が子どもに勧められるような魅力を持つことが大切である。

6月16日 大型児童館整備基本構想検討委員会 出席委員一覧(50音順)

※委員長

氏名	所属・役職
岡村 隆弘	社会福祉法人吉敷愛児園 子ども発達支援センター愛 施設長
桂 信一	一般財団法人山口県保育協会 副会長
川崎 徳子	山口大学教育学部 准教授
児玉 頼幸	山口県こども食堂・子どもの居場所づくり推進会議 構成員代表
平岡 正夫	山口県青少年育成県民会議 副会長
福田 修三	山口県児童福祉連絡会議 会長
松橋 美恵子	山口県地域活動連絡協議会 会長